

MTH-Galeria

■ マリア・テレジア・シュヴァルツ=マツハ

Maria THEResia Schwarz-Mach / 作者サイン: MTH
 <芸術家協会「BrombergArt」創設会員 / オーストリア・視覚
 芸術家同業組合会員>



Maria Theresia Schwarz-Mach

1949年、オーストリア・グラーツ生まれ。スペイン滞在中の1980年代半ばより、同地で出会った表現主義的な作風の芸術家たちとの親交をきっかけに、視覚芸術の技術・知識の修得に専念し始める。以後、手がけた作品は500点を超え、手の込んだ油彩画がその大半を占める。スペイン並びにオーストリア・ニーダーエーストライヒ州ブロンベルグのアトリエに続き、2007年には同じブロンベルグにギャラリー「MTH Galeria」をオープン。国外での制作活動や留学経験、個展開催経験も豊富な、異文化に開かれた国際的視野を持つ活動的なアーティストとして知られている。

～芸術は日常生活に華を添える～

MTH は、1985年から1995年までの南スペイン滞在中、現地の芸術家たちとの深い交流を通し、絵の中で様々な感情を情熱的に処理することを体験したほか、ひととき鮮明な色調を持つスペイン顔料に出会う。この時期はMTHの作風に大きな影響を与えており、彼女の作品には、温暖で太陽が燦々と降り注ぐ南スペインの明るい光と鮮やかな色彩の影響が色濃く反映されている。



LOVE - 2008.09.05

特に絵という視覚的言語には、MTHが目指すことと共鳴するところがあり、彼女は、鑑賞者に喚起したいこと、つまり「鑑賞者自らが作品から何かを感じていくその自律的な過程」を、色遣いを駆使し見事にテーマ化させている。MTHが扱う重要なテーマのひとつには、「人間の複雑性」を描くことが挙げられるが、これは象徴の世界におけるフォルムと色の混ざり合いや色の層の複雑な重なり合いに類似している。MTHは「色」という道具を用い、巧みに感情の強弱を表現し、感覚的な構造を創り出し、そして柔らかい絵具で描いた滑らかなフォルムで象徴的にエネルギーの流れを表現している。また、MTHの非具象的な作品には、彼女が感じたままの色や形がほぼそのまま描かれており、非常に柔らかい絵具を用いたMTH独自のウェット・オン・ウェット手法によって、「偶然」と「意図」の絶妙なバランスを保つ華やかで繊細な構造を持った画肌

的にエネルギーの流れを表現している。また、MTHの非具象的な作品には、彼女が感じたままの色や形がほぼそのまま描かれており、非常に柔らかい絵具を用いたMTH独自のウェット・オン・ウェット手法によって、「偶然」と「意図」の絶妙なバランスを保つ華やかで繊細な構造を持った画肌

が創り出されている。こうして、丸みを帯びた女性的なフォルムや流動的で抽象的な画法、MTHの常に前向きな性格や光と鮮烈な色彩への熱い思い - こういった様々な要素が絵を描く過程で複雑に絡み合い、アーティスト MTH の人柄と重なり合う作品が生まれている。絵というものには作者の人柄が現れるものなのだ。

MTH によれば、芸術の自由は描かれるフォルムの自由によっても表現されるべきであるが、この観点を最も強く支持する芸術家は、抽象表現主義者の中に見られる。MTH は、この芸術形態と強い結びつきを感じるアーティストの一人だ。色と向き合った鑑賞者に、「何かを感じていく」という個々の自立的な過程を呼び起こすのは、抽象絵画の偉大な功績のひとつであり、これは、モダン・アートの歴史を語る上で欠かすことのできない重要な存在となっている。



Evolucion uno - 2004.06.06

MTH は、様々な影響や経験、芸術傾向といったものを絵の中に整然と描くことで自ら人生の観察者となり、懸命に「存在すること」の複雑性を目に見える絵という形で捕らえようと試みる。キャンバスには、複雑に絡み合うフォルムによって描かれた、夢で見た世界や自然から借用したフォルム、そして架空の風景が溢れる。そこでは、いわゆる「物語」というものは語れないが、鑑賞者はそこに、互いに絡み合い、深みのある絵を形成する幾筋もの物語の糸が潜んでいることを感じる。



Viola B II - 2009.08.16

MTH がこれまでに手掛けた絵画は 500 点を超え、グラフィック・アートも膨大な数に上る。絵を描く喜びを実感しながら描かれた明るく輝きに満ちたこれらの作品は、優れたスペイン顔料を用い大変手間のかかる油彩で描かれている。

MTH の作品では、ポジティブな面や明るい面、屈託のなさや活気に満ちた部分が前面に押し出されている感じを受ける。これはおそらく、人生において、その暗い面あるいは黒く染められた面ではなく、このような明るい面をより多く見いだせる MTH 自身の人柄にもよると言って過言ではない。スペインとオーストリア・ブロンベルグのアトリエ、2007 年にブロンベルグに新設された一般開放ギャラリー「MTH Galeria」、ロサンゼルスとサンタ・バーバラでの長期に渡る制作活動、新たな国際的個展開催についての具体的な見通し、今なおとど

まることのない MTH の制作意欲 - これらは、彼女の今後の活躍を大いに期待させるものである。

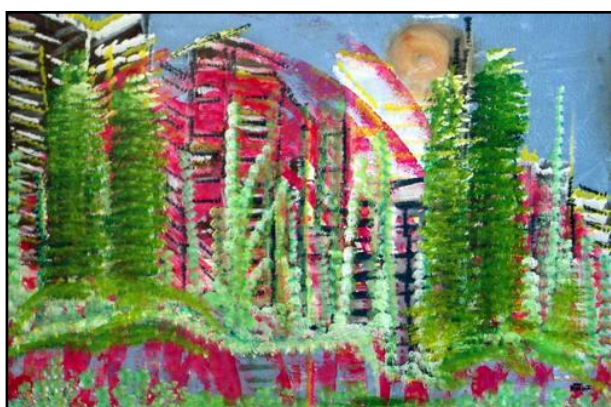
■ 「スカイライン」シリーズについて

MTH は、「スカイライン」シリーズにおいて特別な芸術主張を行っており、このサイクルは、頻繁にロサンゼルス、ニューヨーク、ロンドン間を行き来する MTH 自身の経験を強く反映したものになっている。超高層ビルほど「近代」を的確に表現しているものはなく、この超高層ビル群が空に描く輪郭＝「スカイライン」は、富と権力の住み家をはっきりと示している。また、都市の象徴である超高層ビルには、自ら天をこすろうとする人間の厚かましさ、つまり、かつて天まで届く塔の建設を目指したといわれる古代バビロニア人的な厚かましさが表れている。



Wall Street II - 2006.12.05

しかしながら、MTH は単なる外観のみの描写は否定しており、外観ではなく、その裏に潜む構造の描写を試みている。例を挙げるとすれば、独特のビジネスルールやコネクションを持った「オールド・ボーイズ・ネットワーク」と呼ばれる男性社会が、ウォール・ストリートの夜空に男性のシンボル、ファルス（勃起した陰茎）を掲げている、というのが極端な解釈のひとつになる。このシリーズで描かれるのは、現実存在する場所と、よく知られた富と権力のシンボルであり、MTH は、作品に「ウォール・ストリート」、「為替」、「マンハッタン」といったタイトルを付けることによっても、こういった場所とシンボルに関連性を持たせている。また、このシリーズの作品には、好んで「Money」というタイトルも付けられており、これにより、富と権力、そして大都市間の明確な関係が確立されている。



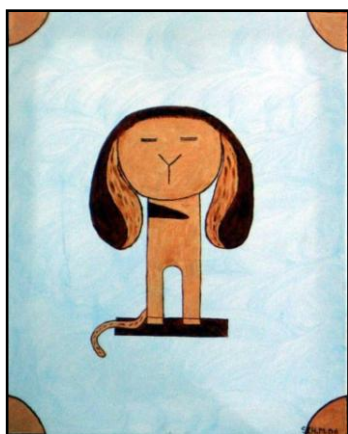
Pink City - 2007.07.06

な価値観を有するエキセントリックな「個性」に出会うことになる。

一方で、明るくビビットなカラーを用いた作品も多く、たくさんのフォルムと植物的な豊かさが描かれたこれらの作品は、こういった図式に当てはまることを拒んでいるかのように見える。高くそびえたつタワーがおとぎ話の世界の植物のように肩を並べ、互いに寄りかかり、そこにはまるで生命が宿っているかのように感じられる。このサイクルは、このシリーズでも非常に表情豊かに用いられている「色」により、架空と現実の街の「肖像画」となり、鑑賞者は、多数の内面的

■ おばあちゃんから子どもたちへ

アーティスト、マリア・テレジア・シュヴァルツ=マツハの母、シュヴァルツおばあちゃんが描く、子ども向けの油彩画。高齢になった今でも、小さい子どもたちのために、日々、たくさんの愛情と喜びを込めて作品の制作に励んでいる。作品は、キャンバスに描かれた油彩画のみ。



犬のアシュレー - 2006.06.26



猫の親子 - 2007.10.03



黄色いペンギン - 2007.02.25